

学 位 論 文 要 旨

研究題目

Yearly changes in cases of acute acquired comitant esotropia during a 12-year period
(12 年間における急性内斜視症例の年次変化)

兵庫医科大学大学院医学研究科

医科学 専攻 高次神経制御 系

眼科学 (指導教授五味 文)

氏 名 大北 陽一

急性内斜視は非常に稀な疾患と考えられてきたが、近年、急性内斜視患者の報告が散見されるようになり、特に若い世代で顕著であることが明らかになってきた。原因はデジタル機器の過剰使用による調節緊張の可能性が指摘されており、特に 2016 年 Lee らによるスマートフォンの過剰使用が原因で発症した急性内斜視の報告以降、スマートフォンの過剰使用と内斜視発症の関連が指摘されるようになった。本研究の目的は、2008 年から 2019 年における突然の複視または内斜視を呈した 30 歳未満の急性内斜視 (acute acquired comitant esotropia、以下 AACE) 患者を対象に、AACE 患者の増加の重要性を確認することと、スマートフォンの過剰使用と AACE 患者の増加との関係を明らかにすることである。

対象は 2008 年 1 月から 2021 年 12 月までの間に当科を受診し、突然の複視、または内斜視を発症した発症年齢が 30 歳未満の AACE 症例を病歴から後ろ向きに検討した。患者数の年次変化、年齢、屈折異常、AACE 型、内斜視型、スマートフォンの過剰使用の有無について検討を行った。

AACE 患者の総数は 171 例で、年毎に有意な増加を認めた (Pearson' s correlation coefficient, 0.9450; $p < 0.0001$)。中学生以上、近視、Bielschowsky 型、基礎型の患者で有意な増加を認めた (全て $p < 0.0001$)。年齢において小学生以下と中学生以上の 2 つの群で比較したところ、中学生以上の群で AACE 患者の増加率は有意に高く (推定値 1.951、 $p < 0.0001$)、屈折異常において近視群と非近視群で比較したところ、近視群において AACE 患者の増加率は有意に高かった (推定値 1.891、 $p < 0.0001$)。スマートフォンの過剰使用の有無について確認できた 133 例中 82 例でスマートフォンの過剰使用が確認され、スマートフォンの過剰使用がある患者において AACE 患者の増加率は有意に高かった (推定値 1.098、 $p = 0.0009$)。

本研究により、AACE 患者数の有意な増加を確認できた。スマートフォンの過剰使用は AACE 患者の増加と関連していることが示唆された。